



「勝海舟の会」史跡探訪 ～勝海舟ゆかりの地めぐり 栃木探訪～

平成28年11月27日(日)～11月28日(月)



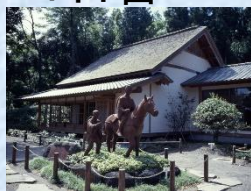
集合日時：平成28年11月27日(日) AM9:30

集合場所：宇都宮駅東口ロータリー

～貸し切りバスで、巡ります～



～1日目～



黒羽芭蕉の館



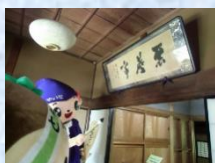
大雄寺



鎮国社



矢板武記念館



矢板武記念館 勝海舟の書



塩釜神社



日光小西屋ホテル
(宿泊場所)



～2日目～



保晃会の碑



日光二荒山神社



日光東照宮



足尾銅山観光



あだち好古館



山本有三ふるさと記念館



栃木駅ロータリー
(解散)

<会費>

25,000円(内訳：バス代10,000円、宿泊費15,000円)

(昼食代、移動時の交通費、史跡散策料は、含まれておりません)

<その他>

- ・雨天の場合も決行します。
- ・当日は歩きやすい服装でお越し下さい。
- ・御朱印帳をお持ちの方はご持参下さい。
- ・連絡先：瀬古 携帯090-5536-1881
メールseko@pricingjp.com

※行程の詳細は次ページをご参照下さい。↓

栃木探訪 行程表

●1日目

集合	9時30分	【宇都宮駅東口ロータリー】	費用
着	11時	【黒羽芭蕉の館・黒羽城址】 ・建物は黒羽城址に建っており、ここで千田孝明講師による「大関増裕と勝海舟」についての講演していただきます。	一人300円 研修室1,000円
		【大雄寺】 ・黒羽城址内にあり、大関家の菩提寺で増裕の墓もあります。	一人350円
		【鎮国社】 ・石碑の表面は、明治7年3月、勝海舟撰文書丹による増裕の一代略記となっていて、かつて増裕と共に幕府の軍政改革に尽力した勝海舟のもとを待子が訪れ、「大関公之碑」撰文を泣きながら要請した、ということです。鐫刻は、東京在住の名工廣羣鶴です。	無料
出発	14時		
着	15時	【矢板武記念館】 矢板武は当時の元勳たちと交流が深く、山縣有朋、品川弥二郎、渋沢栄一、勝海舟などとの交流の記録が残されています。なかでも、矢板武記念館の正面玄関の奥に飾られた「聚蘆亭」と書かれた額は、明治14年の晩秋に勝海舟が書いたとされています。このころの矢板武は、那須野が原開発のため忙殺されており、関係者や政治家達が絶えずこの屋敷に出入りし、活発な議論や相談が行われていました。この様子を勝海舟が「蘆(ちり)まみれになって一生懸命働いている人たちが聚(あつ)まる亭(やしき)」と讃え、名付けたと言われています。	一人60円
		【塩釜神社】 祭神は塩土翁命 武甕槌命、経津主命でこの地にて製塩、安産、畜産の方法を授け奥州千賀浦に至り海水の製塩の方法を授けたといわれています。勝海舟も深く当社を崇拝し多年の念願を成就する為、明治32年12月25日病床において社額を揮毫奉獻しました。	無料
出発	16時30分		
着	17時30分	【日光小西屋ホテル】 創業以来130年の歴史を誇り、正面に飾られた書は、明治の末期勝海舟が日光を訪れここに投宿した際ににしたためたものです。	15,000円

●2日目

集合	8時30分	【保晃会の碑】 保晃会とは明治維新によって幕府の特別な保護を失った日光の社寺が荒廃することを恐れた地元有志や旧幕臣が自ら保護支援するために立ち上げた会です。初代の会長は旧会津藩主松平容保、二代目が榎本武揚、いずれも旧幕府軍側の指導者として戊辰戦争を戦った人物で、いわば敗軍の将ですが明治政府はこれを赦免、容保は後に東照宮宮司、武揚は海軍中将や大臣などの要職に就いています。高さ7mもある巨大な保晃会の石碑の文と書は日光に縁の深かった勝海舟の手によるものです。海舟は「氷川清話」でこの石碑のことに触れていますので興味があれば読んでみて下さい。	無料
		【日光二荒山神社・日光東照宮】	各自
出発	11時30分	せっかく日光まで来たので…。	
着	12時	【足尾銅山観光】 「海舟座談」の明治三十年三月二十七日の項で礦毒問題について話が出てきます。	一人820円
出発	13時30分		
着	15時	【あだち好古館】 各室には浮世絵、錦絵、甲冑などが展示されており、なかでも喜多川歌麿肉筆の「山姥(やまんば)と金太郎」は貴重なもの。ほかに狩野常信(かのうつねのぶ)の大屏風、安藤広重(歌川広重)の東海道五十三次、勝海舟、大久保利通の書、仏像や彫刻など貴重な骨董品が多く陳列されています	一人350円
		【山本有三ふるさと記念館】 近くなのでついでに	各自
出発	16時30分		
解散	16時45分	【栃木駅ロータリー】 東武線でJR栗橋駅に出て東京方面へ 両毛線でJR小山駅まで出て新幹線で	